

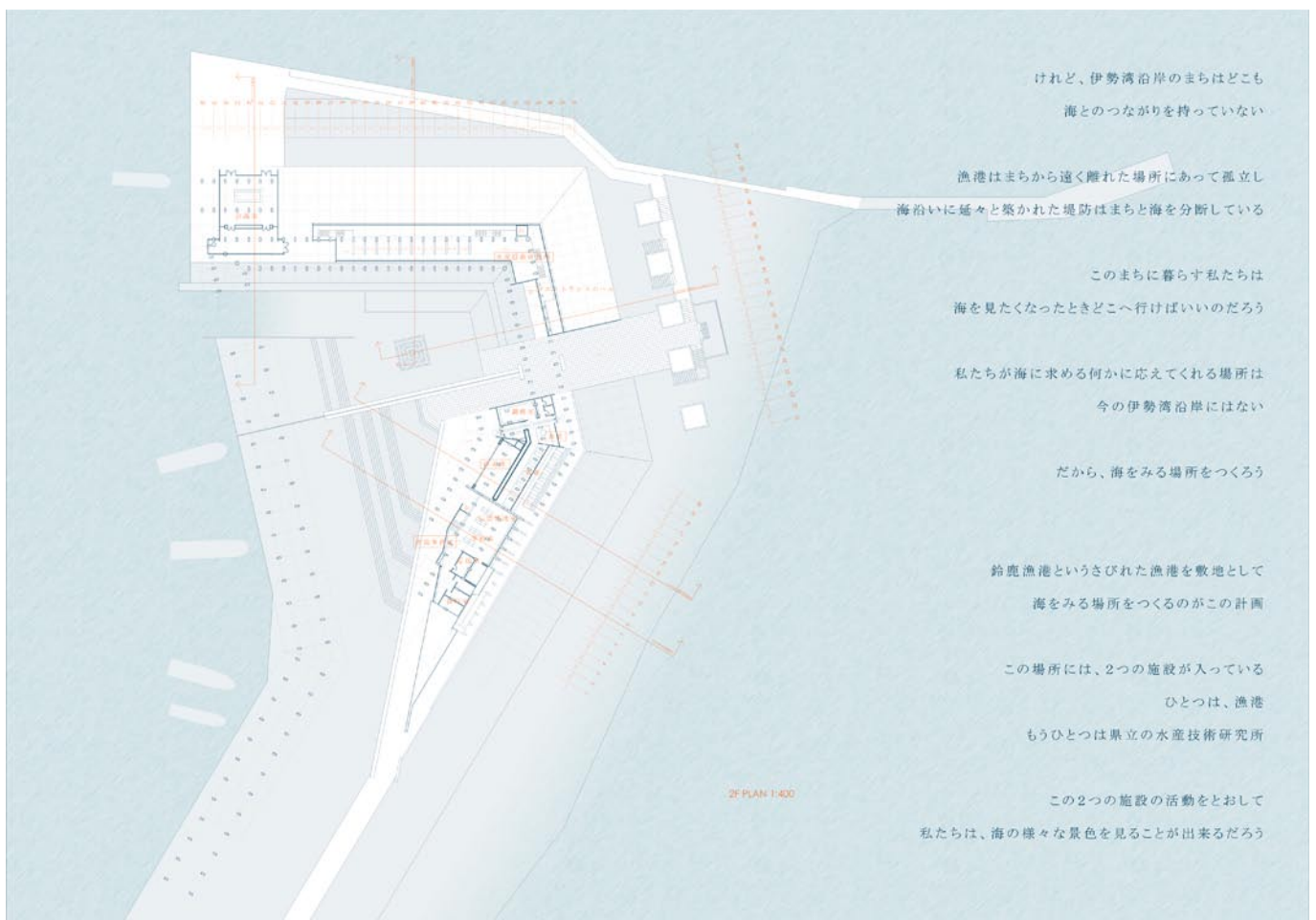
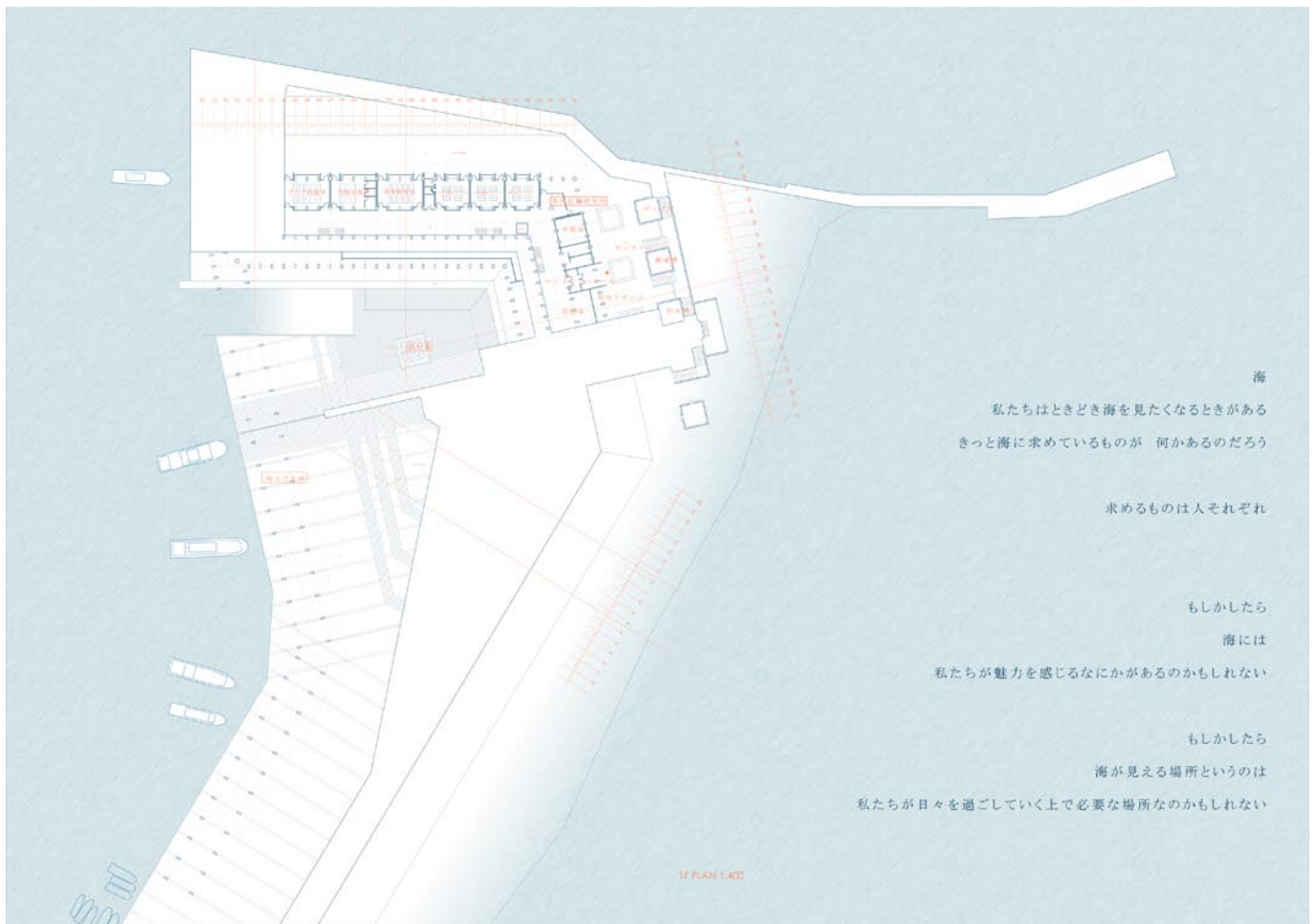
海 を み る 場 所



4 0 3 7 1 5

指 原 豊

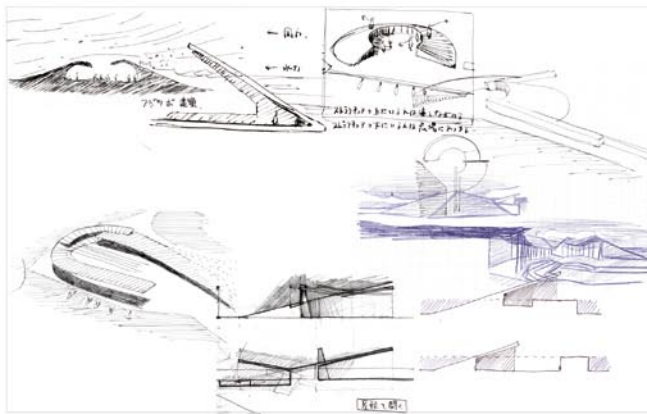
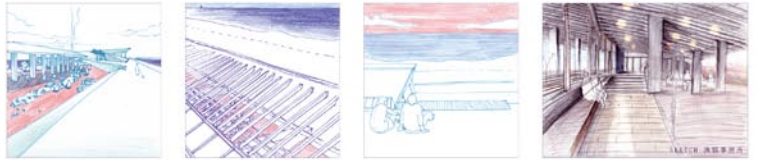
「漁港・水産研究所 海をみる場所」 指原 豊



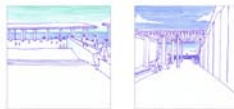
「漁港・水産研究所 海をみる場所」 指原 豊



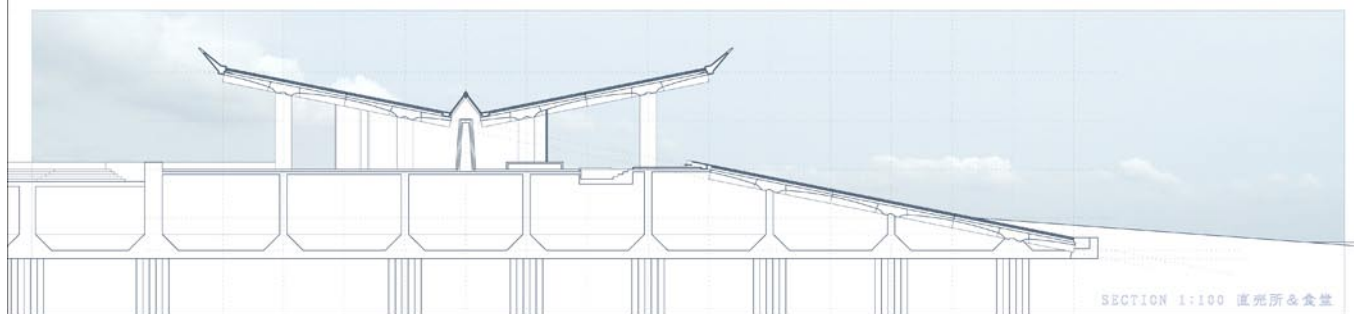
なだらかな斜面の上からは伊勢湾を一望できる。
 斜面は滑らかに砂浜へ続き、海へ、水平線へとつながる。
 ふと陸の方を見れば
 そこでは漁協の人、漁師たちの働く姿が見える。



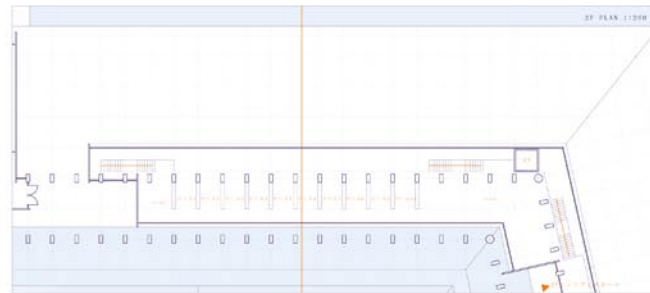
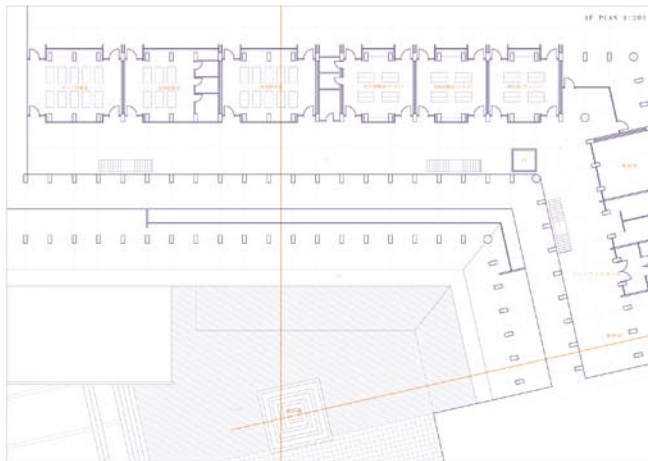
食堂では、その日水揚げされた魚を
 海の眺めを肴に食べられる



敷地を貫く軸線上の先には、小さな灯台が立つ
 夏至の日、朝日が灯台の真後ろから昇る
 海は一面真っ白に輝き、たくさんの漁船がシルエットとなって浮かび上がる
 この勇壮な景色を、建築が額縁となって切り取る



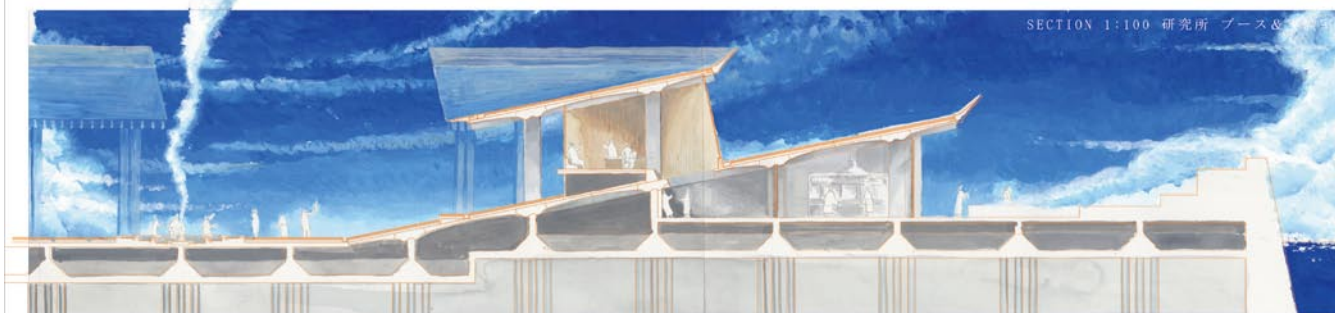
「漁港・水産研究所 海をみる場所」 指原 豊



研究所には、所員一人一人にブースがある。ここからは漁師の活動の様子が見える。

出港前に囲炉裏で暖を取り、漁から戻ると荷さばき所で水揚げしを行い、せりをする。昼は再び囲炉裏を囲んで酒を飲み、網や船の手入れをする。

研究所員と漁師の間に自然と会話生まれるかもしれない。交流が始まるかもしれない。共同研究をするなんてこともあるかもしれない。



夕方になると、囲炉裏は一般の人たちのものになる



